

2

握手

井上ひさし

教科書 p.16 ~27

漢字の学習

次の線部の言葉の漢字は読み方を書き、カタカナは漢字で書きなさい。

- (37) カカげる…
- (35) ギシキ…
- (33) プンカツ…
- (31) 悪いクセ…
- (29) キミヨウだ
- (27) スリ傷…
- (25) 雑なシロモノ
- (23) ヤツカイ…
- (21) 腫れる…
- (19) * 一周忌…
- (17) * 怖い…
- (15) * 姓名…
- (13) * 捜す…
- (11) * 泥(訓読み)
- (9) * 監督…
- (7) 爪先…
- (5) 鶏(訓読み)
- (3) 穏健…
- (1) * 洗濯…

- (38) サビしい…
- (36) ヘイボン…
- (34) ユイゴン…
- (32) 切手をハる
- (30) バクハツ…
- (28) ツブれる…
- (26) ヒジ…
- (24) ムジャキ…
- (22) * 葬式…
- (20) * 腫瘍…
- (18) * 恐怖…
- (16) 百姓…
- (14) 捜査…
- (12) * 傲慢…
- (10) * 帝国…
- (8) * 開墾…
- (6) * 爪を切る
- (4) * 鶏舎…
- (2) * 穏やか…

言葉の学習

1 対義語 次のそれぞれの□に漢字一字を入れて、対義語を完成させなさい。

- (1) 謙虚 ⇄ 慢
- (2) 平凡 ⇄ 凡

2 語句の意味 次のそれぞれの語句の意味として正しいものを、あとから一つ

ずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 「達者」
 - ア 若い
 - イ 男らしい
 - ウ 上手だ
 - エ 立派だ
- (2) 「年季が入る」
 - ア 何度失敗しても屈せず立ち上がる。
 - イ 数をこまかして得をしようとする。
 - ウ すっかり古くなって今の時代に合わない。
 - エ 長い間修業を積んで腕が確かである。
- (3) 「気前がいい」
 - ア 過ぎたことにこだわらず、常に前を向くさま。
 - イ お金や物に執着しないで、さっぱりしているさま。
 - ウ 人を見下して、失礼な発言や態度を繰り返すさま。
 - エ どんな仕事にも文句を言わず根気よく働くさま。
- (4) 「こつぱいこ」
 - ア 別れを告げるあいさつ。
 - イ 時間を引き延ばす願かけ。
 - ウ 愛情を示すやりとり。
 - エ 心残りを果たす場面。

物語の構成

第三のまとめり	第二のまとめり	第一のまとめり
<p>【教】24P 16ℓ ～(最後)</p>	<p>【教】16P 11ℓ～24P 15ℓ</p>	<p>【教】冒頭～ 16P 10ℓ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ルロイ修道士の葬式(葉桜が終わる頃) ルロイ修道士はなくなった。身体中が悪い腫瘍の巣になっていた。 ルロイ修道士のももなく一周忌になる。(現在) 	<p>ルロイ修道士</p> <ul style="list-style-type: none"> ルロイ修道士にまつわる思い出 <ul style="list-style-type: none"> 握手は万力<small>まんりき</small>よりも強く、腕を勢いよく上下させて握手する。 手はいつも汚れ、てのひらが固く擦り合わせるたびに鳴る。(畑や鶏舎で子供たちの食料を作るのに精を出していた。) 左の人さし指の爪が潰れている。 ルロイ修道士を怒らせた東京見物の思い出 <ul style="list-style-type: none"> 「わたし」：無断で園を抜け出して東京へ行った。 ルロイ修道士：平手打ちをし、口をきかなくなった。 ルロイ修道士の遺言のような言葉 <ul style="list-style-type: none"> ルロイ修道士：「わたし」の仕事がうまくいっていると聞く。「困難は分割せよ。」【教】22P 6ℓ ルロイ修道士は病気で、これはお別れの儀式？ ルロイ修道士：子供たちの幸福を願っている。 ルロイ修道士の語る天国への思い・握手 「わたし」：ルロイ修道士の手を握り、腕を激しく振った。 <p>「再会したとき」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わたし」：「日本人は〜申し訳ありません。」 ルロイ修道士：「総理大臣のように傲慢です。」 【教】同18・19ℓ <p>「寂しさ 感謝」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ルロイ修道士との再会(桜の花が散って、葉桜には間がある頃) 第二次大戦直前から日本暮らしのルロイ修道士は、故郷のカナダへ帰ることになったと、別れを言いにみんなに会いに回っている。 ルロイ修道士(「わたし」がいた天使園の園長)とのやりとり

読解のポイント

「握手」という題名のもつ意味を考えよう。

最初の「握手」(回想)……「握力は万力よりも強く、しかも腕を勢いよく

上下させるものだから、こっちの肘が机の上に立ててあった聖人伝にぶつ

かって、腕がしびれた。」(【教】17P 18ℓ～20ℓ)

再会の「握手」……「実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手で

も握るようにそつと握手をした。」(【教】18P 1・2ℓ)

最後の「握手」……「わたしは)しっかりと握った。それでも足りずに、

腕を上下に激しく振った。」(【教】24P 13ℓ)「ルロイ修道士は顔をしかめて

みせた。」(【教】同15ℓ)

「握手」によって、ルロイ修道士の愛情や、互いの心の交流が表現されるともに、ルロイ修道士の体調の変化をも暗示している。

展開のしかたを捉えよう。

物語や小説は、展開のしかたに工夫をすることで、出来事の印象を強めたり、次の展開への期待を高めたりすることができる。ここでは、回想を織り込んだ展開となっていることを捉え、その目的や意図を考えてみよう。

ポイント チェック 次の空欄にあてはまる言葉を書き入れよう。

この物語は、「①」が、恩師

と再会し、過去の出来事を ③ する形で展開する。物語には三度の

の場面が見られるが、ここに、ルロイ修道士の子供たちへの

や、彼の ⑥ の変化を読み取ることができる。

⑤

④

③

②

①

演習問題

1

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



①

線① 「彼のてのひらはもうギチギチとは鳴らない。あの頃はよく鳴ったのに」とありますが、ルロイ修道士のてのひらが「あの頃はよく鳴った」理由について説明した次の文の①・②に入る最も適切な言葉を、①は七字、②は三字で、本文中から書き抜いて答えなさい。

〈①を作るために働いていたので、②でも張ったように固かったから。〉

①	②
-----	-----
-----	-----
-----	-----

②

線② 「ルロイ修道士の奇妙な爪」とありますが、彼が「奇妙な爪」になった理由について説明した次の文の①・②に入る最も適切な言葉を、①は二字、②は三字で、本文中から書き抜いて答えなさい。

〈日本とアメリカの①中に、日本人の②によって爪を潰されたから。〉

②	①
-----	-----
-----	-----

③

線③ 「こんなうわさが流れていた」とありますが、この「うわさ」の中で、子供たちは、ルロイ修道士が日本人に対してどのような感情を抱いていると想像していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 心の底では日本人に好意をもっている。
- イ 心の底では日本人に不信感を抱いている。
- ウ 心の底では日本人を憎んでいる。
- エ 心の底では日本人に感謝している。

--

〈井上ひさし「握手」より〉

(教 18・19 P)

(4) 線4 「うわさ」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① この「うわさ」について説明した次の文の□に入る適切な言葉を、「元」という言葉を必ず用いて、簡潔に書いて答えなさい。

〈ルロイ修道士は、天使園の子供を育ててアメリカのサーカスに売り、
□といううわさ。〉

□② この「うわさ」が立ち消えになった理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア うわさをしていることがルロイ修道士に知れると叱られてしまうから。
イ ルロイ修道士の優しさが心の底からのものであるとみんなが理解したから。

ウ ルロイ修道士が全く取り合ってくれず、続けていてもおもしろくなかったから。

エ 人のうわさをすると罰が当たるといふルロイ修道士の教えを思い出したから。

☑ □(5)

線5 「日本人は先生に対して、〜申し訳ありません」とありますが、この発言に対する返答からわかる、ルロイ修道士の考えとして適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」一人が謝っても、ルロイ修道士の恨みは消えないということ。

イ 日本人の誰一人として戦争責任を感じる必要はないということ。

ウ 人間を人種や国籍で判断してはいけないということ。

エ 戦争になれば敵を憎むのはやむを得ないということ。

オ 自分が代表のようにものを言うのは傲慢だということ。

□ □

演習問題

2

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①

線① 「はてなと心の中で首をかしげた」とありますが、「わたし」が「首をかしげた」理由を、「ことに気がついたから。」に続く形で、本文中から二十四字（読点も字数に数えます）で書き抜いて答えなさい。

ことに気がついたから。

②

線② 「ルロイ修道士は悲しそうな表情になって」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
 ア「わたし」が予想外に悪い子だったと知ったから。
 イ 自分はひどい仕打ちをしたと、心が責められたから。
 ウ「わたし」に憎まれているのではという疑いが起きたから。
 エ もう二度と平手打ちができなくなると思ったから。

③

線③ 「こたえましたよ」とありますが、何がこたえたと言っているのですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
 ア 一月間、ルロイ修道士が口をきいてくれなかったこと。
 イ 大切な靴下や下着を売ってしまったこと。
 ウ 無断で天使園を抜け出したこと。
 エ 東京まで捜しに来られたこと。

〈井上ひさし「握手」より〉

(教 20～22 P)

□(4) 線④「……」の部分に省略されていると考えられる言葉を、十五字以内(読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

□(5) 線⑤「両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける」とありますが、このルロイ修道士のしぐさの意味について説明した次の文の□①・□②に入る最も適切な言葉を、①は八字、②は四字で、本文中から書き抜いて答えなさい。

〈内心で「□①」とどなっていることを意味する、□②である。〉

□(6) 線⑥「顔は笑っていた」とありますが、このときのルロイ修道士の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 今も怒っていることを悟られまいと、作り笑いをしている。

イ 「わたし」の幼稚さにあきれ、あざ笑う気持ちになっている。

ウ 「わたし」の話の意外な展開に驚き、面白く思っている。

エ 過去の出来事をつかしみ、愉快な気分になっている。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

強化演習 ①

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

まるでルロイ修道士が

□(2)

※ □に入る最も適切な言葉を、本文中から二字で書き抜いて答えなさい。

🎯 □(3)

線② 「日本でお暮らしになっていて、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか」とありますが、この「わたし」の質問に対して、ルロイ修道士は、一番楽しかったのはどのようなときだと答えていますか。本文中から三十四字（読点も字数に数えます）で書き抜いて答えなさい。

□(4)

線③ 「お別れの儀式」とありますが、これを言い換えた言葉を、本文中から九字で書き抜いて答えなさい。

□(5)

線④ 「さすがにそれははばかられ」とありますが、先生にきくのが「はばかられ」た理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 先生を病人だと決めつけてきくのは失礼だと思ったから。
- イ 事情を追及して先生を困らせたくなかったから。
- ウ ほかにもっとききたいことがあったから。
- エ 先生に怒られるのが怖かったから。

〈井上ひさし「握手」より〉

教 22・23 P

□(6) 線5 「忘れるわけではない」とありますが、「わたし」が上川一雄君の名前を忘れていないのはなぜですか。その理由がわかる一続きの二文を探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

□(7) 線6 「いっとう悲しいときは……？」とありますが、この「わたし」の質問に対して、ルロイ修道士は、一番悲しかったのはどのようなときだと答えていますか。本文中の言葉を用いて書いて答えなさい。

□(8) (3)・(7)のルロイ修道士の答えからうかがえる、園児たちに対する思いとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 園児たちの成長を何よりも喜び、卒園後も幸せであることを願っている。
- イ 園児たちが教えを守り、天使園のことを忘れずにいることを願っている。
- ウ 園児たちが早く一人前になり、自分を助けてほしいと願っている。
- エ 園児たちが友情を忘れず助け合って生きてほしいと願っている。

□(9) 線7 「なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです」とありますが、この言葉に表れているルロイ修道士の気持ちとして最も適切なものを

--

次から選び、記号で答えなさい。

- ア せつなさ
- イ 後悔
- ウ 同情
- エ 反感

--

□(1) 線1 「冗談じゃないぞ、と思った」とありますが、このとき「わたし」はなぜこのように思ったのですか。「まるでルロイ修道士が」に続けて書いて答えなさい。

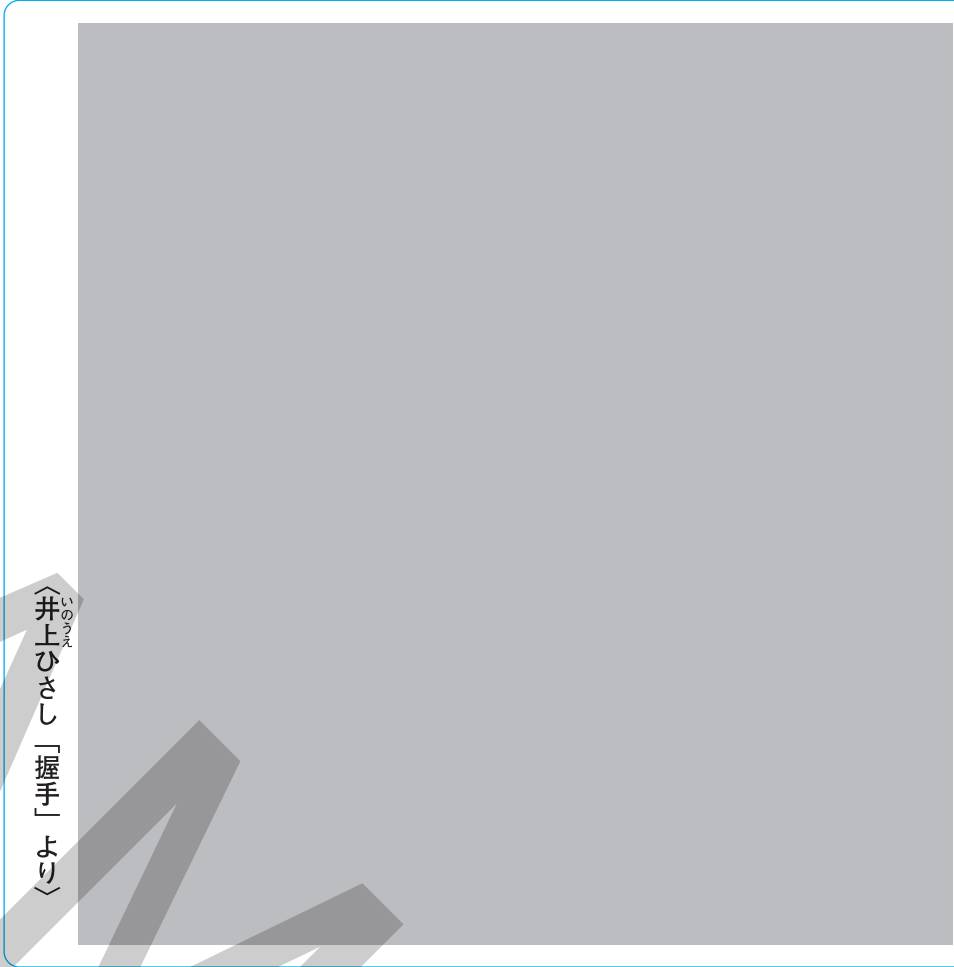
強化演習 ②

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



□(2) 線② 「ルロイ修道士は悲しそうな表情になって」とありますが、このときのルロイ修道士の思いを、三十文字以内（句読点や符号も字数に数えま
す）で書いて答えなさい。

□(3) 線③ 「ぶたれてあたりまえの、ひどいこと」とありますが、それは具
体的にどのようなことですか。四十五字以内（句読点も字数に数えます）で
書いて答えなさい。



〈井上ひさし「握手」より〉

〔教〕 20～22 P

□ (1) 線① 「一度だけ、ぶたれました」とありますが、このとき「わたし」

が初めに思い出したルロイ修道士の姿を、その姿が伝えていることを含めて、三十文字程度（句読点や符号も字数に数えます）で書いて答えなさい。

④ □ (4)

線④ 「平手打ちよりこっちのほうがこたえましたよ」とありますが、このときの「わたし」の気持ちを、五十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

⑤ □ (5)

線⑤ 「ただしあの頃と違って、顔は笑っていた」とありますが、このときのルロイ修道士の様子を、「昔のことを」という形で、三十文字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

⑥ □ (6)

線⑥ 「だったらいいのですが……」とありますが、この言葉の奥に隠された「わたし」の気持ちを、二十文字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。
